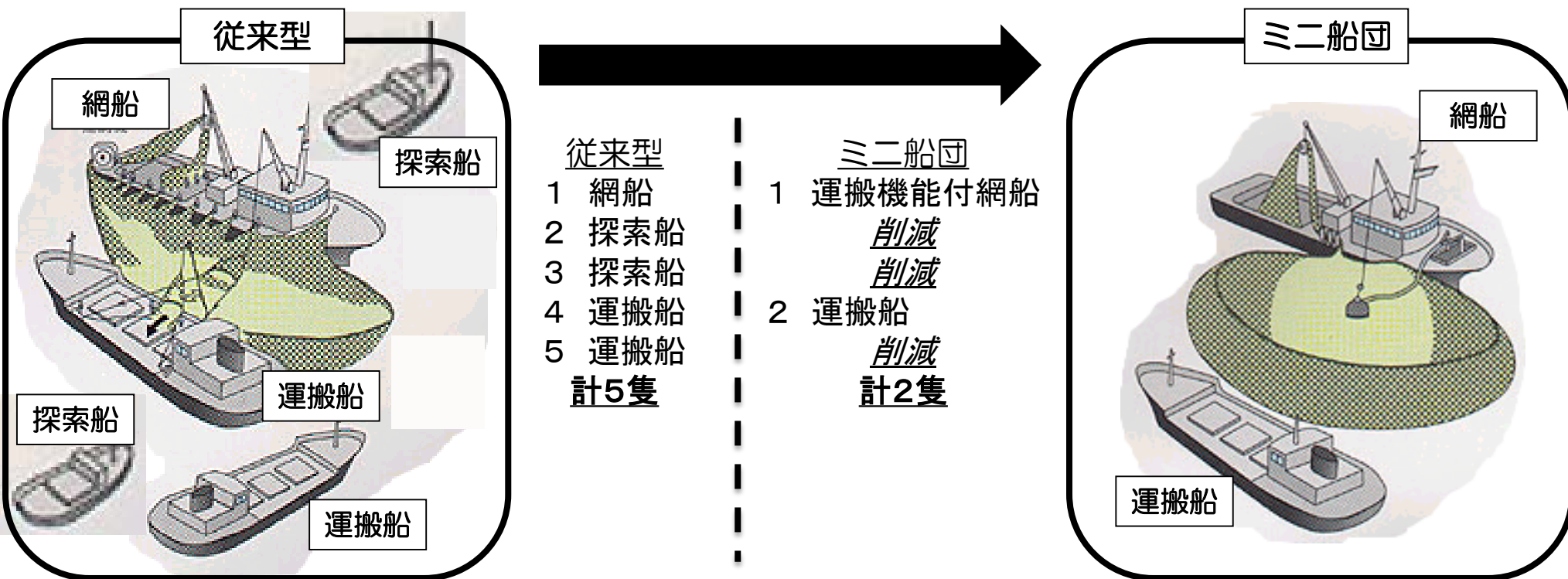


- 漁船隻数の縮減により漁獲能力を増やすことなくコストを大幅に削減し、安定的な経営を図る取組(従来と同規模の漁具(網等)の使用、探索能力の低下等により漁獲能力は増大しない)。
- 網船の大型化による居住環境の改善や安全性の向上。

例えば、5隻体制から2隻体制に変更した場合・・・



大中型まき網漁業の合理化に向けた取組

実証事業（試験操業）後の本許可について

- 試験操業の取組みは海区ごとに実施。この際、沿岸漁業にも十分配慮。
- 大中型まき網漁業の操業については、海区によって対象魚種や操業条件が異なっている。
- よって、ある海区での実証結果を他の海区に適用するのではなく、それぞれの海区における取組み状況を踏まえて当該海区ごとに本許可する考え。

「大中型まき網漁業の許可等に関する取扱方針」（抜粋）（平成29年7月24日付け29水管第1560号）

（試験操業許可に係る無補充大型化）

第13 大中型まき網漁業の認可を受けた者が、次に掲げる要件の全てに該当する場合において、当該認可を受けた船舶の総トン数を上回る総トン数の代船について許可を受けようとするときは、第5、第6及び第8の規定にかかわらず、法第55条第1項及び法第61条の規定を適用して許可をすることとする。ただし、当該認可に係る操業区域が別表2の海区9（注：太平洋中央海区）又は海区10（注：インド洋海区）を含まない場合に限る。

（1）法第61条の規定による変更の許可の申請に係る船舶が、大中型まき網漁業の**試験操業の許可に係るもの**であること。

（2）前号に規定する**試験操業の結果、漁獲量が増大しないと認められる**こと。

（3）（略）

2 （略）

大中型まき網漁業の合理化に向けた取組（進捗状況）

① 第三十一全徳丸（199トン 根拠地：茨城県北茨城市）

	従来型船団(80トン型)	構造改革事業船(第三十一全徳丸)
網 船	80トン×1隻	<u>199トン×1隻</u>
運 搬 船	330トン×1隻	330トン×1隻
探 索 船	80トン×1隻	—
乗組員数	42名	37名

同一海区で操業する他船団との比較(漁獲量)

【実証事業開始前】

単位：%

【実証事業開始後】

単位：%

事業年度	第三十一全徳丸 (北部太平洋海区同操業形態船の 平均を100とした数値)
H24年度	115
H25年度	93
H26年度	110
平均	105

事業年度	第三十一全徳丸 (北部太平洋海区同操業形態船の 平均を100とした数値)
H27年度	100
H28年度	102
H29年度	80
平均	96

注：平成29年度は、
30年2月末までの漁獲量

② 第六福栄丸（199トン 根拠地：茨城県北茨城市）

	従来型船団(80トン型)	構造改革事業船(第六福栄丸)
網 船 運 搬 船 探 索 船 乗組員数	80トン×1隻 330トン×1隻 79トン×1隻 42名	199トン×1隻 330トン×1隻 — 37名

同一海区で操業する他船団との比較(漁獲量)

【実証事業開始前】

単位：%

【実証事業開始後】

単位：%

事業年度	第六福栄丸 (北部太平洋海区同操業形態船の 平均を100とした数値)
H24年度	107
H25年度	96
H26年度	86
平均	95

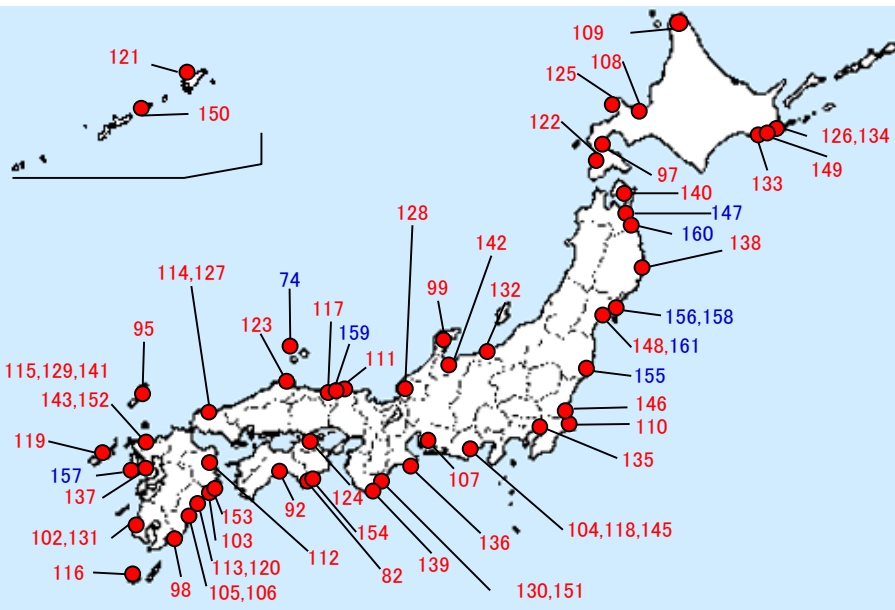
事業年度	第六福栄丸 (北部太平洋海区同操業形態船の 平均を100とした数値)
H27年度	93
H28年度	95
H29年度	72
平均	89

注：平成29年度は、
30年2月末までの漁獲量

(参考：平成29年までに本分科会で報告した改革型漁船)

開催年月	会議名	船団名	改革前			改革後		
			網船	運搬船	探索船	網船	運搬船	探索船
平成29年 11月	第85回 資源管理 分科会	第七新丸	80トン×1	281トン×1 311トン×1	—	300トン×1	281トン×1	—
		第十一海栄丸	80トン×1	315トン×1	79トン×1	199トン×1	315トン×1	—
		第三十一昭徳丸	135トン×1	340トン×2	85トン×2	199トン×1	316トン×1 338トン×1	155トン×1
平成28年 11月	第80回 資源管理 分科会	第七十八山仙丸	80トン×1	292トン×1	91トン×1	300トン×1	292トン×1	—
		第一清勝丸	135トン×1	195トン×1 283トン×1 286トン×1	67トン×1 99トン×1	199トン×1	195トン×1 283トン×1 286トン×1	99トン×1
		第三十五八興丸	300トン×1	300トン×1	—	499トン×1	—	—
		第十一源福丸	135トン×1	270トン×1 340トン×1	85トン×2	199トン×1	270トン×1 340トン×1	85トン×1
平成27年 11月	第74回 資源管理 分科会	第三十一日東丸	135トン×1	242トン×1 286トン×1 317トン×1	99トン×1	325トン×1	317トン×1	—
		第二十一不動丸	80トン×1	304トン×1	99トン×1	199トン×1	304トン×1	—
		第六十一波一丸	80トン×1	247トン×1 254トン×1	103トン×1	199トン×1	347トン×1 254トン×1	—
平成26年 11月	第68回 資源管理 分科会	第一寿和丸 北勝丸	135トン×2	300トン×4	90トン×2	300トン×1 250トン×1	300トン×1 305トン×1	—
		第八共徳丸	80トン×1	300トン×2	84トン×1	199トン×1	375トン×1 129トン×1	—
		第七十八石田丸	80トン×1	203トン×1 332トン×1	81トン×1	199トン×1	203トン×1 332トン×1	—
平成25年 11月	第63回 資源管理 分科会	第六十三惣寶丸	135トン×1	330～340トン ×2	99トン×1	279トン×1	340トン×1	99トン×1
		第八十一大栄丸 第二十三大栄丸	135トン×2	250～343トン ×4	85トン×4	199トン×1 135トン×1	305～343トン ×3	85トン×4
平成24年 11月	第59回 資源管理 分科会	第八十八稻荷丸	80トン×1	200～350トン ×2	80～100トン ×1	199トン×1	203トン×1 332トン×1	—
平成23年 11月	第54回 資源管理 分科会	第2たいよう丸	135トン×1	200～350トン ×2～3	85～99トン ×1～2	415トン×1	—	—
		第八十一石田丸	80トン×1	200～350トン ×2	80～100トン ×1	270トン×1	247トン×1	—
		第八十八石田丸	80トン×1	200～350トン ×2	80～100トン ×1	300トン×1	281トン×1	—
		第八十一天王丸	135トン×1	320～339トン ×2	85トン×1	199トン×1	320～339トン ×2	245トン×1

漁業構造改革プロジェクト進捗状況 —実証事業中・実証予定の計画— (平成30年5月31日現在)



- 119 五島定置(大型・小型)：仕切網による操業効率の向上と魚価向上<28.4～ 改革型>
- 120 近海まぐろ延縄(日向)：メカジキトラップによる対象魚種の多様化、操業海域変更<28.4～ 改革型>
- 121 名瀬沿岸かつお一本釣り：船団縮小、省エネ漁船導入によるコスト削減等<28.8～ 改革型>
- 122 ひやま(小型いか釣り)：新型漁撈機器の導入、高鮮度出荷、いか釣り専業化等<28.5～ 多角化>
- 123 境港(べにずわいがり)：冷蔵機能魚倉、冷却水槽による高鮮度化、規格化等<29.4～ 改革型>
- 124 香川(海面ニジマス養殖)：ブリ養殖休漁期を活用したニジマス養殖、ブランド化等<28.1～ 改革型>
- 125 古宇郡(ホタテガイ養殖)：養殖施設を9基→33基に増設し生産体制の強化、販路拡大等<28.6～ 多角化>
- 126 根室湾中部(小型いか釣り)：1人乗り操業による高品質品生産、LED集魚灯導入等<28.8～ 改革型>
- 127 山口外海(大型定置)：未利用漁場活用による生産力向上、村張りから法人化による経営体制強化等<28.11～ 改革型>
- 128 福井(大型定置)：出荷・販売ルートの開発による収益性向上等<29.3～ 改革型>
- 129 遠旋組合⑥(大中まき)：活魚輸送・畜養いけすによる漁獲物の有効利用、船団縮小(5隻→4隻)等<29.1～ 改革型>
- 130 遠洋かつお一本釣り(尾鷲)：499トン改革型漁船での省コスト操業、活餌イワシ生存率向上等<29.3～ 改革型>
- 131 枕崎(遠洋かつお一本釣り)：冷海水によるブライン鯉の安定供給、省エネ船型導入等<29.3～ 改革型>
- 132 上越(小底)：2人体制のニギスに特化した操業モデル確立、僚船との協業化、選別機導入等<29.4～ 改革型(沿岸漁業版)>
- 133 厚岸(さば・いわし棒受網)：漁場探索の協業化、自動まき餌機導入による省人化等<28.5～ 多角化>
- 134 根室(さば・いわし棒受網)：漁場探索の協業化、自動まき餌機導入による省人化等<28.5～ 多角化>
- 135 全国さんま棒受網(公海さんま棒受網)：船上凍結製品の生産、ロシア加工船への洋上売魚等<28.5～ 多角化、28.5～29.7マイルト>
- 136 三重県真珠養殖(真珠養殖)：低塩分養成技術の導入、作業船の共同化等<28.6～ 改革型>
- 137 長崎以西底曳(以西底びき網)：新型網導入による省エネ、キダイの販路拡大等<28.10～ マイルト>
- 138 宮古・釜石(沖底)：省エネ型漁船の導入、トロールセンサーシステム導入等による省コスト化<30.2～ 改革型>
- 139 太地町(大型定置)：省エネ・省力型漁労機器搭載の改革型漁船の導入等による省コスト化<29.10～ 改革型>
- 140 青森県大畑(小型定置)：改良型網の導入、省エネ型漁船の導入等による生産性の向上<28.11～ 改革型>
- 141 遠旋組合⑦(大中まき)：改革型運搬船による養殖用種苗の洋上販売、船団縮小(5隻→4隻)等<29.9～ 改革型>
- 142 とやま市(大型定置)：改革型マント網の導入、ホタルイカの付加価値化、旧網利用による操業期間延長<28.12～ 改革型>
- 143 遠旋組合⑧(大中まき)：改革型運搬船の導入、フィッシュポンプの活用、氷使用量の削減、船団縮小等(9隻→8隻)<29.9～ 改革型>
- 145 遠洋かつお一本釣り(焼津③)：S-1カツオの増産、499トン型基本船型の開発・導入<29.12～ 改革型>
- 146 神栖市沿岸漁業(小底)：改革型漁船の導入、消費地市場への自家出荷等<29.3～ 改革型(沿岸漁業版)>
- 147 遠洋まぐろ延縄(八戸)：ブーム式荷役装置を搭載した改革型漁船の導入、転載による効率化等<改革型>
- 148 遠洋かつお一本釣り(塩釜)：改革型漁船の導入、新製品の生産、タスマン漁場の再開等<30.3～ 改革型>
- 149 全国さんま棒受網(落石)：省エネ・省コスト型漁船の導入、フィッシュポンプによる省人化等<29.9～ 改革型>
- 150 与論(ソデイカ旗旗し)：改革型漁船の導入、ソデイカ下足の高鮮度出荷、ブランド化等<29.9～ 改革型>
- 151 尾鷲(大型定置)：改革型漁船及び改革型漁網の導入、一艘起しへの操業転換及び網交換作業の効率化等<29.10～ 改革型>
- 152 遠旋組合⑨(大中まき)：改革型漁船の導入、船団縮小(5隻→4隻)、運搬船の共同利用等<30.4～ 改革型>
- 153 北浦(中まき②)：改革型網船の導入、船団縮小(5隻→4隻)、網船冷海水水槽による鮮度保持等<30.4～ 改革型>
- 154 野根(大型定置)：改革型漁船及び改革型漁網の導入、周年操業化による生産性向上等<30.2～ 改革型>
- 155 いわき(遠洋まぐろ延縄)：経営体統合、大型改革船及び省エネ型改革船の導入による船団操業の効率化等<改革型>
- 156 遠洋まぐろ延縄(気仙沼⑥)：省エネ・労働環境改善型漁船の導入、航海計画の最適化等<改革型>
- 157 遠旋組合⑩(大中まき)：ミニ船団化(5隻→3隻)、スラリーアイスと冷海水の併用による鮮度保持等<改革型>
- 158 遠洋まぐろ延縄(気仙沼⑦)：改革型漁船の導入による省エネ運航、縦型コンベアの設置による餌料作業の大幅な省力化等<改革型>
- 159 浜坂(沖底②)：改革型沖底・いか釣り兼業船の導入、船上凍結による漁獲物の高品質化等<改革型>
- 160 浜森県八戸(大型定置)：改革型漁船及び改革型漁網の導入、季節網の採用による安定生産体制の確立等<改革型>
- 161 北まき・石巻②(大中まき)：改革型運搬船の導入による漁獲物の高鮮度化、石巻への水揚げの増加等<改革型>

- 74 隠岐(中まき)：燃油消費量の削減、適量漁獲と活処理等<改革型>
- 82 近海まぐろ延縄(高知②)：省エネ、新型魚倉、深縄、漁場変更<28.5～ 改革型>
- 92 御豊瀬(沖底)：小型化、省人化、直まき方式の採用等<28.9～ 改革型>
- 95 対馬市(小型いか釣り)：船凍品製造、LED集魚灯等<28.8～ 改革型>
- 97 八雲町ホタテガイ養殖：3年貝主体の生産構造への移行、養殖作業の共同化等<26.12～ 改革型>
- 98 鹿兒島(大型定置)：網の保守管理作業の軽減、漁獲物の販売方法の改善等<27.8～ 改革型>
- 99 能都(大型定置)：1ヶ所統一合理的2ヶ所統操業、改革型金庫網、柔軟な出荷戦略等<27.9～ 改革型>
- 102 串木野遠洋まぐろ延縄：経営体統合、既存船の大規模リニューアル<27.9～ 改革型、27.10～29.9マイルト>
- 103 延岡(大型定置)：両落とし式定置網導入、活魚出荷等販路拡大<27.10～ 改革型>
- 104 小川(さば棒受網)：まき餌コスト削減、99トン型鋼船の導入、活魚・活処理等<28.3～ 改革型>
- 105 近海かつお一本釣り(日南・南郷②)：操業海域変更、海水氷製造機の搭載等<27.7～ 改革型>
- 106 近海かつお一本釣り(日南・南郷③)：操業海域変更、低温活餌装置の搭載等<28.2～ 改革型>
- 107 蒲郡(沖底)：操業体制の見直しによる省人化、アカザエビ活魚化等<27.9～ 改革型>
- 110 鏡子(沖底③)：ハイブリッド型漁船での操業、殺菌水生成装置導入等<28.9～ 改革型>
- 111 香住(沖底)：巻き返しによる漁具費削減、船上冷凍設備の導入等<27.9～ 改革型>
- 112 大分県(中まき)：フィッシュポンプの網船への搭載、小型魚の蓄養等<27.11～ 改革型>
- 113 川南(沿岸まぐろ延縄)：新たな経営体の確保、漁船の小型化等<28.4～ 改革型(沿岸漁業版)>
- 114 山口外海(バイ籠)：バイ籠専業船の導入による船上作業の効率化等<28.7～ 改革型>
- 115 遠旋組合⑤(大中まき)：改革型漁船導入による船団縮小(5隻→4隻)等<28.5～ 改革型>
- 116 屋久島(瀬戸一本釣り)：操業協業化による効率化等<28.6～ 改革型(沿岸漁業版)>
- 117 網代港(沖底②)：船上加工による6次産業化<28.9～ 改革型>
- 118 遠洋かつお一本釣り(焼津・御前崎)：599トン改革型漁船での省コスト操業、活処理血製造等<27.12～ 改革型>(全体計画)
- 57 遠洋まぐろ延縄(全体計画)：燃油使用量の削減、漁獲物の品質向上等

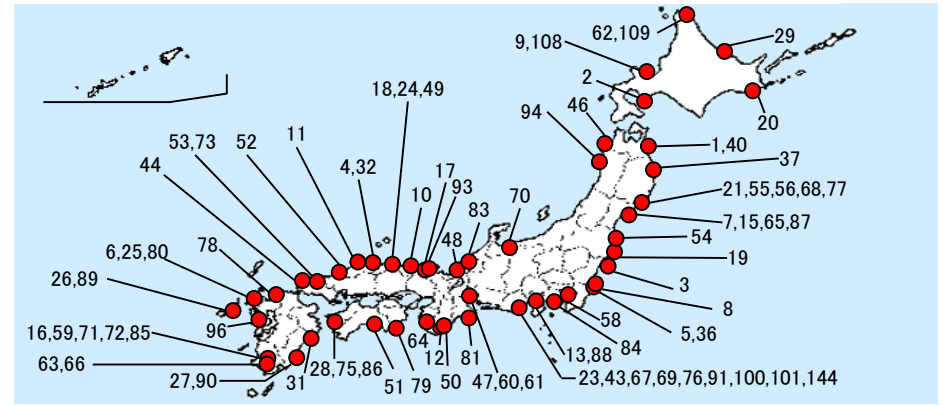
**認定改革計画 161件：実証事業中 56件(全体計画1件含む)、実証予定 9件、
実証事業終了 96件(がんばる漁業への移行11件含む)**

(注1)赤数字：実証中の計画、青数字：実証予定の計画 (注2)計画名は、地域プロジェクト名及び漁業種類の一部を省略して記載

漁業構造改革プロジェクト進捗状況 —実証事業を終了した計画— (平成30年5月31日現在)

- 1 八戸(大中まき)：船団縮小(4隻→2隻)＜20.4～23.3 改革型＞
- 2 北海道機船(室蘭)(沖底)：省コスト共通船型、操業協同化＜20.9～21.8・21.9～24.8 改革型＞
- 3 大津(大中まき)：船団縮小(4隻→3隻)＜20.10～23.9 改革型＞
- 4 賀露(沖底)：省エネ船型導入＜20.9～23.8 改革型＞
- 5 鏡子(沖底)：小型化(74トン→19トン)、協業化＜20.6～23.5 改革型＞
- 6 遠旋組合①(大中まき)：船団縮小(5隻→4隻)＜21.1～24.1 改革型＞
- 7 石巻(大中まき)：単船化、省エネ省コスト化＜21.8～24.7 改革型＞
- 8 波崎(大中まき)：船団縮小(4隻→2隻)＜21.8～24.7 改革型＞[自己負担等により実施]
- 9 北海道機船(小樽)(沖底)：生産体制の合理化＜22.2～25.1 改革型＞
- 10 番住(べにずわいがに)：常設活魚船導入＜20.9～23.8 改革型＞
- 11 境港(べにずわいがに)：省エネ省コスト、高鮮度保持＜21.9～24.8 改革型＞
- 12 紀伊水道(中まき)：船団縮小(9隻→7隻)＜21.7～23.6 マイルド＞
- 13 静岡(大中まき)：船団縮小(6隻→5隻)＜23.1～25.1 改革型＞
- 15 塩釜(遠洋底びき)：新規漁場(インドネシア)開発＜21.8～22.2 マイルド＞[中止]
- 16 山川(海まき)：海外漁場(パプアニューギニア)の確保＜21.11～23.11 マイルド＞
- 17 柴山(沖底)：耐候性漁船、高品質水揚げ＜21.9～24.8・22.9～25.8 改革型＞
- 18 浜坂(沖底)：小型化(90トン→65トン)、省人化＜21.9～24.8 改革型＞
- 19 小名浜(大中まき)：船団縮小(2ヶ統8隻→2ヶ統7隻)＜21.10～23.11 マイルド＞
- 20 北海道機船(釧路)(沖底)：船内1次加工等による高付加価値化＜22.9～25.8 改革型＞
- 21 気仙沼(近海まぐろ延縄)：省エネ省コスト、高鮮度保持＜22.8～25.8・22.10～25.10 改革型＞
- 23 遠洋かつお一本釣り(焼津)：省エネ省コスト、高付加価値化＜22.9～24.8 マイルド＞
- 24 網代港(沖底)：省エネ、高鮮度保持＜23.4～26.3 改革型＞
- 25 遠旋組合②(大中まき)：2船団グループ操業化＜23.4～26.3 改革型＞
- 26 五島(中まき)：5船団でトータルコストの削減＜23.4～26.3 改革型、22.6～24.5 マイルド＞
- 27 近海かつお一本釣り(日南)：小型化(70トン→19トン)＜23.4～26.3 改革型＞
- 28 愛媛(真珠養殖)：越物真珠生産＜22.11～25.3 改革型＞
- 29 紋別(小底)：省エネ化、衛生管理＜23.3～26.2 改革型＞
- 31 北浦(中まき①)：6船団共同操業・共同運搬化＜23.4～26.3 改革型、23.4～25.3 マイルド＞
- 32 賀露(沖底)：省エネ、船凍出荷＜23.9～26.8 改革型＞
- 36 鏡子(沖底②)：小型化(74トン→19トン)、船首ブリッジ導入＜24.6～27.5 改革型＞
- 37 遠洋まぐろ延縄(宮古)：省エネ、脱血処理の徹底による付加価値向上＜24.5～27.4 改革型＞
- 40 八戸(小底)：コスト削減、鮮度向上＜27.3 改革型＞[取り下げ]
- 43 遠洋まぐろ延縄(焼津①)：省エネ、流通改善＜24.4～26.3 マイルド＞
- 44 下関(沖底)：小型化(75トン→69トン)、付加価値向上＜24.4～27.3 改革型＞
- 46 深浦(沖底)：省エネ・小型化(50トン→19トン)、衛生管理・付加価値向上等＜25.9～28.8 改革型＞
- 47 三重外湾(中まき)：船団縮小(6隻→4隻)、ウォーターバッグによる活魚輸送等＜25.1～28.1 改革型＞
- 48 舞鶴(大型定置)：操業体制の再編、省人・省力化、活魚率向上等＜25.1～28.1 改革型＞
- 49 網代港(小型定置)：省力化、活魚率・鮮度向上、大目合網の導入等＜24.4～27.3 改革型＞
- 50 遠洋まぐろ延縄(尾鷲)：小型化・省エネ、アルコールスラリーアイス導入＜24.6～27.5 改革型＞
- 51 遠洋まぐろ延縄(高知)：既存船の省燃費型への改修、船上加工＜24.4～26.3 マイルド＞
- 52 浜田(沖底)：リンシップ等による省エネ、高鮮度化・活魚販売促進＜25.4～27.3 マイルド＞
- 53 萩(小型いか釣り)：共同探索・運搬等による操業の効率化＜24.6～26.5 マイルド＞
- 54 遠洋まぐろ延縄(いわき)：省エネ、漁獲物処理の迅速化＜25.7～28.6 改革型＞
- 55 遠洋まぐろ延縄(気仙沼②)：省エネ、EU衛生基準に対応した設備＜25.7～28.6 改革型＞
- 56 遠洋まぐろ延縄(気仙沼③)：導入省エネ、高付加価値化＜25.3～28.2 改革型＞
- 58 遠洋まぐろ延縄(三崎)：船型の小型化、超深縄漁法の導入＜25.8～28.7 改革型＞
- 59 遠洋まぐろ延縄(いちき串木野)：省エネ、次世代型冷凍システムの導入＜25.9～28.8 改革型＞
- 60 遠洋まぐろ延縄(伊勢)：省エネ・省コスト型漁船、浅縄操業の導入＜26.2～29.1 改革型＞
- 61 遠洋まぐろ延縄(南伊勢)：針数削減等による効率的操業の導入＜25.4～27.3 マイルド＞
- 62 北海道機船(稚内)(沖底)：省エネ型漁船、活魚脱血処理等による高付加価値化＜25.10～28.10 改革型＞
- 63 枕崎(遠洋かつお一本釣り)：鯉節向けライン鯉生産、燃油費削減＜25.3～26.3 マイルド＞

- 64 紀伊水道(中まき)：2艘まきから1艘まきへの転換、船団縮小(9隻→7隻)＜26.2～29.2 改革型＞
- 65 北まき・石巻(大中まき/海まき)：単船操業、水揚数量の大幅削減＜26.4～29.3 改革型＞
- 66 枕崎(海まき)：合併事業、ブライン操業、大目網の導入＜25.3～27.2 マイルド＞
- 67 遠洋まぐろ延縄(焼津②)：冷気自然循環システムの採用、燃油使用量の削減＜26.3～29.2 改革型＞
- 68 遠洋まぐろ延縄(気仙沼④)：パトックフロー船型、省エネ航行、高品質化＜26.5～29.4 改革型＞
- 69 遠洋かつお一本釣り(焼津②)：B-1製品の製造、燃油削減＜25.3～27.3 マイルド＞
- 70 全国遠洋まぐろ(富山)：操業・航海の短縮、燃油削減、付加価値向上＜26.4～29.3 改革型＞
- 71 鹿児島(カンパチ養殖)：国産人工種苗、飼料のEP化、作業共同化＜25.4～28.8 改革型＞
- 72 鹿児島(ブリ養殖)：国産人工種苗、2年魚出荷、共同作業船＜25.3～27.7 改革型＞
- 73 山口外海(小型定置)：新型網の導入、目合い拡大、鮮度保持・出荷調整等＜25.12～28.11 改革型＞
- 75 宇和島(中まき・小まき)：船団縮小(5隻→4隻)、生産コストの削減、活魚化率の向上＜26.4～29.3 改革型＞
- 76 遠洋まぐろ延縄(焼津②)：メバチ・キハダロイン加工、ピンナガドレス加工等＜25.10～27.9 マイルド＞
- 77 遠洋まぐろ延縄(気仙沼⑤)：主機駆動発電システム、気仙沼全量水揚げ等＜26.4～29.3 改革型＞
- 78 佐賀玄海(小型いか釣り)：ケンサキイカ活魚化1隻、船凍品製造1隻等＜26.6～29.5 改革型＞
- 79 近海まぐろ延縄(中まき)：省エネ、高鮮度、漁場変更(中南近海→南方)＜25.10～27.9 マイルド＞
- 80 遠旋組合③(大中まき)：船団縮小(5隻→4隻)、2層甲板、ブライン連結＜26.4～29.3 改革型＞
- 81 三重外湾(大中まき)：船団縮小(6隻→4.5隻)、活魚、窒素ナノバブル高鮮度化＜26.5～29.4 改革型＞
- 83 福井(沖底)：省エネ、揚網方法の改善、活魚化＜25.10～28.9 改革型＞
- 84 真鶴(大型定置)：網設置位置の適正化、新設計網の導入＜26.3～29.2 改革型＞
- 85 遠洋まぐろ延縄(いちき串木野②)：解凍硬直防止技術の確立、地元販売等＜26.8～29.7 改革型＞
- 86 下灘(真珠母貝養殖)：真珠母貝品種絞り込み、共同養殖、母貝大型化等＜26.1～28.12 改革型＞
- 87 遠洋かつお一本釣り(塩釜・焼津)：共同化、温度帯変更、塩釜基地等＜25.12～27.12 マイルド＞
- 88 静岡(中まき)：ミニ船団化、小型化、活魚生産等＜26.8～29.7 改革型＞
- 89 五島(中まき)：会社統合、ミニ船団化、活魚生産等＜26.1～28.1 マイルド＞
- 90 近海まぐろ延縄(日南・南郷)：省人、小型化、漁場変更、活餌操業等＜26.8～29.7 改革型＞
- 91 海外まき網(海まき)：インド洋・太平洋の併用操業、改革型漁船2隻の連携、大型化等＜27.4～30.3 改革型＞
- 93 竹野(大型定置)：単船揚網体制、箱網の改良、底建網の採用、活魚化等＜26.5～29.4 改革型＞
- 94 秋田(大型定置)：流木予防網、大型クラゲ対策網、高価格魚種選択漁獲網の導入等＜27.3～30.2 改革型＞
- 96 遠旋組合④(大中まき)：船団縮小(5隻→4隻)、主機関共通化等＜27.4～30.2 改革型＞
- 100 遠洋かつお一本釣り(焼津・御前崎)：599トン船での省コスト操業等＜27.10 改革型＞[取り下げ]
- 101 遠洋まぐろ延縄(焼津③)：代替冷媒導入、冷凍機の稼働台数適正化等＜27.3～29.2 マイルド＞
- 108 北海道機船(小樽②)(沖底)：LLPによる効率的な操業、省人化、漁具共有化等＜27.4～30.3 多角化＞
- 109 北海道機船(稚内②)(沖底)：操業対策委員会による操業、箱詰め割合向上等＜27.4～30.3 多角化＞
- 144 海外まき網(海まき②)：VDの高度利用、共同運搬船の活用＜28.10～29.9 マイルド＞



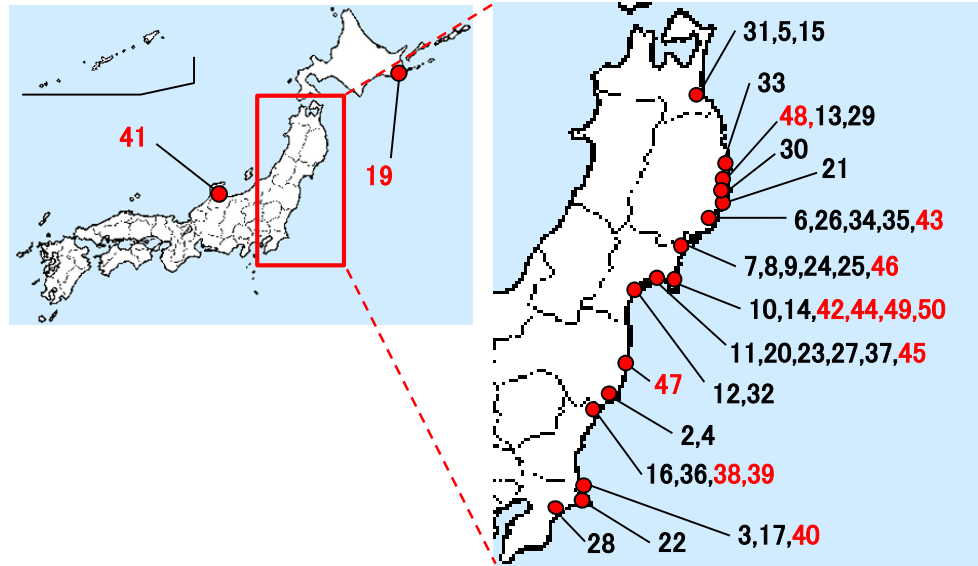
実証事業終了 96件 (がんばる漁業への移行 11件含む)

(注3)黒数字：実証を終了した計画 (注4)計画概要及び地図はがんばる漁業へ移行した11件を除く。

地域漁業復興プロジェクト進捗状況 (平成30年5月31日現在)

【実施中・実施予定の計画】

- 19 全さんま・歯舞(さんま棒受網): LED漁灯の導入による燃油消費量の削減、高付加価値化等【H25.8～H30.8 新船型】
 - 38 北まき・大津③(大中まき): 199トン型新船導入による船団縮小(3隻→2隻)、運搬船の共同利用等【H27.10～ H30.9 新船型】
 - 39 北まき・大津④(大中まき): 運搬機能付き網船導入による船団縮小(3隻→2隻)等【H28.1～H31.1 新船型】
 - 40 北まき・波崎⑤(大中まき): 船団縮小による合理化、コスト削減等【H28.6～ H31.5 新船型、H29.7～ H31.6 新船型】
 - 41 全さんま(大型)・富山(さんま棒受網): 同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H28.8～ H31.8 新船型】
 - 42 全さんま(大型)・宮城(さんま棒受網): 同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H28.8～H31.8 新船型】
 - 43 全さんま(小型)・大船渡④(さんま棒受網): 同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H28.8～ H31.8 新船型】
 - 44 全さんま(小型)・宮城(さんま棒受網): 同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H29.3～ H32.2 新船型】
 - 45 宮城県沖底②(沖底): 新船・既存船グループ操業、高鮮度・高付加価値化等【H28.4～H31.3 既存船型、H29.2～H32.1 新船型】
 - 46 気仙沼(近海まぐろ延縄②): 協業化、集団操業、省エネ運航、高鮮度化等【H28.4～H31.4 既存船型】
 - 47 北まき・小名浜③(大中まき): 船団縮小(3隻→2隻)、冷海水及び水水による鮮度保持、分散水揚げ等【H29.3～H32.2 新船型】
 - 48 宮古・釜石(沖底③): 省エネ運航、高鮮度化等【H29.9～ H31.8 新船型】
 - 49 遠洋かつお・まぐろ(遠洋まぐろ延縄・女川③): 省エネ漁船、6次産業化、高鮮度化等【H29.4～H32.3 新船型】
 - 50 全さんま(大型)・宮城②(さんま棒受網): 同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H29.12～H31.12 新船型】
- 全体計画(マスタープラン)
- 1 北部太平洋海区大中小型まき網漁業復興計画 (大中小型まき網)
 - 18 全国さんま棒受網漁業復興計画 (さんま棒受網)



【事業を終了した計画】

- 2 北まき・小名浜①(大中まき): 船団縮小(2ヶ統8隻→2ヶ統4隻)、漁獲物の高鮮度保持等【H24.6～H27.5 新船型】
- 3 北まき・波崎②、③(大中まき): 船団縮小(4隻→3隻)、生産コストの削減等【②: H24.4～H25.3 新船型、③: H24.2～H27.1 新船型※】
- 4 北まき・小名浜②(大中まき): 船団縮小(4隻→3隻)、コンテナバックの導入等【H24.6～H27.5 新船型】
- 5 八戸(大中まき): 船団縮小(4隻→3隻)、船凍品の開発等【H24.5～H26.4 新船型】
- 6 全さんま・大船渡(さんま棒受網): コスト削減、高付加価値化等【H24.10～H26.9 新船型】
- 7 全さんま・気仙沼(さんま棒受網): 兼業型・改革型漁船の導入、フィッシュポンプの活用、高付加価値化等【H24.9～H27.8 新船型】
- 8 気仙沼(近海まぐろ延縄①): 集団操業、水揚量の均衡化、ペア操業による省エネ等【H24.4～H27.3 既存船型】
- 9 遠洋まぐろ延縄・気仙沼: 船上ロイン加工、省エネ等【H24.5～H27.4 既存船型】
- 10 遠洋かつお一本釣り・女川②: 一本釣りときまき網によるハイブリッド化等【H24.4～H27.3 新船型】
- 11 北まき・石巻(大中まき): 船団縮小(5隻→2隻)、省エネ・省コスト、高品質化等【H25.2～H28.1 新船型】
- 12 亙理(小底): 小底と敷網漁業との兼業化等【H25.1～H28.1 新船型】
- 13 宮古・釜石(沖底): 省エネ・省人・省力化、高鮮度出荷等【H24.7～H27.6 新船型】
- 14 遠洋まぐろ延縄・女川①: 省エネ、低燃費操業、新たな拠点整備等【H25.1～H28.1 新船型】
- 15 八戸(遠洋底びき網): 欧州型漁船の導入、新漁場の利用等【H25.8～H28.8 新船型】
- 16 北まき・大津(大中まき): 船団縮小(3隻→2隻)、省エネ・省コスト等【H25.4～ H27.5 新船型】
- 17 北まき・波崎④(大中まき): 船団縮小(4隻→3隻)、新型揚網機の導入等【H25.6～H28.6 新船型※】
- 20 宮城県沖底①(沖底): グループ操業による漁場の有効利用及び付加価値向上等【H24.9～ H27.8 既存船型】
- 21 新おつち(大型定置): 船団縮小、周年操業、水籠を備えた網船の導入等【H24.9～ H27.8 既存船型・新船型】
- 22 北まき・鏡子(大中まき): 船団縮小(3隻→2隻)、小型鮮魚パックの導入等【H26.4～H29.3 新船型・既存船型】
- 23 遠洋かつお一本釣り・東・中日本: グループ操業、燃油消費量の削減、魚籠の設備改良等【H25.3～ H28.3 既存船型】
- 24 遠洋かつお一本釣り・気仙沼②: S-1製品の製造、燃油消費量の削減等【H25.2～H28.2 既存船型】
- 25 全国遠洋まぐろ・気仙沼: 年2航海操業、労働環境の改善、次世代型冷凍システムの導入等【H25.11～H28.11 新船型】
- 26 全さんま・大船渡②(さんま棒受網): LED漁灯の導入、漁獲物の船上箱詰め等【H25.8～H28.8 新船型】
- 27 石巻底びき(沖底・小底): 低コスト操業と高付加価値化等【H25.2～H27.1 新船型】
- 28 千葉(中まき): 船団縮小(7隻→5隻)、船型の改革による省コスト化、コンテナバックの導入等【H26.4～H29.3 新船型】
- 29 宮古・釜石②(沖底): 省エネ型漁船、省人・省力化、高付加価値化等【H26.4～H29.3 新船型】
- 30 三陸やまだ(大型定置): 船団構成のスリム化によるコスト削減、高鮮度漁獲物の供給等【H25.4～H28.4 新船型】
- 31 八戸③(大中まき): 活魚、鮮魚、凍結魚の搬送可能な運搬船の導入等【H26.10～H29.9 新船型】
- 32 仙台湾(刺し網等): マサバ刺し網から釣りへの転換、活魚出荷等【H25.10～H28.9 既存船型】
- 33 田野畑村(大型定置・小型定置): 網規模縮小によるコスト削減、定員削減等【H26.4～H29.3 新船型】
- 34 全さんま・大船渡③(さんま棒受網): 省エネ・省コスト漁船、船上箱詰め等【H26.8～H29.8 新船型】
- 35 全さんま・大船渡・綾里(さんま棒受網): 省エネ漁船、曳き網と延縄の兼業漁業、船上箱詰め等【H26.8～H29.8 新船型】
- 36 北まき・大津②(大中まき): 運搬機能付き網船導入、船団縮小(3隻→2隻)等【H27.4～H30.4 新船型※、H27.5～H30.4 新船型】
- 37 石巻底びき(小底(貝桁)): 資源管理に配慮したグループ操業等【H26.9～H29.8 既存船型】

※自己負担により実施

認定漁業復興計画 50件：実施中 16件(全体計画2件含む)、事業終了 34件

(注1) 赤数字：実施中の計画、青数字：実施予定の計画、黒数字：終了した計画

(注2) 計画名は、復興プロジェクト名及び漁業種類の一部を省略して記載